

緑風

No.28

令和5年7月15日発行
佐沼高等学校同窓会
在京佐高会

本会の発展を願う

在京佐高会会長 菊地拓朗（高十七回生）



佐沼高等学校同窓会「在京佐高会」会員の皆さん如何お過ごしでしょうか。日頃より会の運営にご理解とご協力を賜わり感謝申し上げます。

さて、今回の「緑風」は会の目的、発足からの歴史等を簡略に纏めてみました。

先輩方が築いてこられた歴史等を振り返ることに、伝統ある在京佐高会へのご理解をより一層深めて頂き、まだ会員となっておられない同窓生の皆さんに、機会を得て是非ご紹介頂ければとの思いです。

【在京佐高会の目的・歴史等】

※問答形式にしました。

Q. 在京佐高会とは何の会ですか、目的は。
A. 本部同窓会の「東京支部」として関東地方に居住しておられる旧制佐沼中学・高校卒業生の同窓会です。
会則の【目的】に次のように記されています。

本会は在京佐高会と称し、会員相互の親睦を図り、母校佐沼高等学校の発展に寄与することを目的とする。

Q. いつ頃から活動しているのですか。

A. 戦前より東京を中心として旧制佐沼中学同窓生が私的に個々で活動する親睦会がありました。その組織が「裸足会」と云う名称の親睦グループに発展し、戦後裸足会を継承しつつ昭和三十五年頃新名称佐沼高等学校「東京同窓会」を設立。この組織が本部同窓会規約により関東地方で正式に支部として認められた同窓会の最初です。会長大石耕一郎氏（旧中十二回）

しばらく活動を続けておりましたが、役員間に誤解が生じ内紛へ、そして対立へと進展し昭和三十九年頃解散の結末に至りました。

数年が経過し、多くの卒業生が集まっている東京が、このような状態では如何と考えた志ある同窓生が中心となり、同志に呼びかけ本部同窓会とも連携を図りつつ再建の道を開き、昭和四十二年一月二十二日「在京佐高会」として再発足をしました。

初代会長八島元徳氏（旧中一回）事務局長榊原卓郎氏（高一回）と云う布陣でした。

【参考文献】●佐沼高校百年史●在京佐高会創立五十周年記念寄稿誌「緑風」より「裸足会」について 第七代会長菅原讓氏（高三回）

因みに本部同窓会の歴史を「佐高九十年の歩み」より簡略に記します。

戦前より旧制中学の「佐沼中学校同窓会」

は存在していましたが、同窓生は少なく会長は校長先生、副会長教頭先生、役員は教職員をもって構成されておりました。

戦後民主化の風潮に伴い、組織の改編が行われ、全ての役員に卒業生を充当し、現在に連なる「佐沼高等学校同窓会」として発足しましたのが昭和三十三年です。初代会長には亙理胤篤氏（旧中二回）副会長には佐々木利郎氏（旧中七回）がそれぞれ選任されました。

Q. 現在会員数は何人ですか。

A. 約五百八十名です。関東近辺に居住される同窓生は六千名程と思われまます。

Q. どんな事業をされているのですか。

A. 4月「小さな旅」を開催。希望者で都内近郊の名所を見学。のち懇親会。参加者約二十名前後です。

10月「総会・懇親会」を開催。会場はここ数年「八芳園」にて開催。参加者約百名。その他記念事業等も行っています。

Q. 卒業生は誰でも入会できますか。

A. 勿論です。規約を遵守し、年会費一千元をお納めください。ご希望の方は本会役員あるいは事務局までご連絡ください。歓迎です。

地方に在る高等学校で東京に同窓会組織を有する高等学校は僅かだと言うことです。会員の皆さんにお願いします。在京佐高会を次の世代に引き継ぐためには会員数を維持する必要があります。先ずは会員の皆さんより、まだ会員になっておられない同窓生の皆さんに「在京佐高会」への参加呼び掛けをお願いします。

結びに会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

「多士済濟」

佐沼高等学校同窓会会長 氏家長良典



在京佐高会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。あわせて日頃より同窓会の運営にご理解とご協

力が厚く感謝致しております。今年こそ昨年まで三年連続中止になった本部同窓会を開催する方向でおります。今、母校は新校舎建築に向けての工事が始まっています。白亜の校舎は工事用シートですつぽり覆われ、解体の槌音が

我が家まで聴こえてきます。学校内を訪れると仮設の校舎ながら生徒の皆さんは生き生きと学校生活を送っている様に思われます。

今年五月の開校記念講話は、東京在住のマネジメントシステムコンサルタントの及川康平氏（高十七回、米川）より「世界最強のIT企業に働く人々の働き方」というテーマで講演をいただきました。世界的にみて日本のIT関連企業は遅れているとの指摘等に、在校生はメモを執りながら熱心に聴き入っている姿が印象的でした。

昨年、在京同窓生お二人の嬉しいニュースがありました。漫画家で『トキワ荘最後の住人』の著

書もある山内ジョージ氏（本名紀之・高十三回・宝江）の特別展『山内ジョージ文字絵の世界』が十月一日から十二月十一日まで、仙台文学館で開催されました。作品紹介や故石ノ森章太郎氏のアシスタント時代のエピソードが宮城県内のテレビや新聞であり、多くの観覧者が訪れたとの事です。

横濱在住の俳人根本文子氏（旧姓佐藤・高九回・錦織）は還暦を過ぎてから東洋大に入学、大学院と進み、研究発表を纏めた著書『正岡子規研究―中川四明を軸として―』が俳人協会評論賞を受賞され、十一月に授賞式が行われました。両氏の八〇代での益々創作意欲には敬意を表したいと思います。

訃報ですが、本部同窓会前会長の高橋勝利氏（高九回）が昨年十一月に逝去されました。

氏は高校時代に抜群の運動神経と体格から相撲部の助っ人を頼まれ活躍したことが縁で、卒業と同時に大相撲に入門、昭和の角聖双葉山の指導を受けた異色の経歴の持主。ただ体重が増えない体質で数年で断念して郷里に戻り、(株)タカハシ住建の社長として永く勤められた。同窓会では会長として同窓会発展に寄与されました。在京佐高会の皆様と共にご冥福をお祈り申し上げます。

結びに、在京佐高会のご発展と在京佐高会の皆様のご健勝を重ねて祈念申し上げます。

「いあいさつ」

佐沼高等学校校長 狩野秀明



在京佐高会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の発展のためにご支援ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。佐沼高校の校長として三年目を迎え、微力ではありますが母校発展のために力の限り尽くして参りますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま、今年五月より感染症法上の扱いが季節性インフルエンザと同じ5類

に移行されました。学校としてまだまだ油断ができない状況が続いており、今後感染症への警戒を続け、コロナ禍前の教育活動に戻しつつも「ウィズコロナ」の考え方で、新しい取り組みも加えながら教育活動を進めて参ります。

この三月の卒業生（全日制）の進路先ですが、国立公立大学への進学では、岩手大学九名、山形大学四名のほか、東北大学や宮城教育大学などに三十八名が合格。私立大学では、東北学院大学、立教大学、法政大学などに百十九名、看護医療系などの専門学校に三十八名、登米市役所九名など公務員就職に十二名、民間企業への就職に五名などの進路実績でした。

今年度の新入生は全日制二百二十六名、定時制五名が入学し（写真参照）、在籍生徒数は全日制十八クラス六百七十一

名、定時制四クラス二十一名の総計六百九十二名となり、「至誠・献身・窮理・力行」の校訓のもと、文武両道の校是を引き継ぎ、生徒たちは精一杯勉学と部活動に励み、明治三十五年の創立から百二十一年目を迎えるに相応しく、伝統的に意欲的に高校生活を送っております。



なお、令和元年度から行われている約五十年ぶりの校舎等改築工事ですが、一昨年の六月に第一体育館、昨年十月にテニスコート四面が完成し立派な施設とな

りました。校舎ですが、昨年八月にプレハブ三階建ての仮設校舎へ引越えを行い仮設校舎での教育活動が開始され、現在、旧校舎（鉄筋四階建て）の解体工事が行われており、令和七年度の新校舎完成に向けて、まもなくその建設工事が開始される予定です。

今後も同窓生の皆様や地域の皆様のお力をお借りしながら、二十一世紀の国際社会を生き抜くことができる英知と健全な心身を持った徳性の高い人材の育成を、教職員一丸となって進めて参りますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、在京佐高会の皆様の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

緑風の窓

第36回俳人協会評論賞を受賞して

根本文子（九回生）



私はこの度思いもかけず、著書『正岡子規研究—中川四明を軸として』（笠間書院）で、俳人協会評論賞を賜りました。内容については昨年十二月十五日『東京新聞』に掲載された記事「俳句ってなんだろう・還暦過ぎから 研究の道へ」を参照させて頂きます。



「受賞作は東洋大大学院時代に発表した論文を纏めた。近代俳句の草創期に関

西で活躍した中川四明に焦点を当て、正岡子規の俳句革新を支えた人物であること、また小説の執筆に傾いた高浜虚子が俳壇に復帰した背景に四明の呼びかけがあったことなどを指摘、さらに、珍しい子規と鴎外との、俳句や植物の交換交流なども取り上げている。」

私と俳句の出会い、太平洋戦争のレイテ沖海戦を生き延びて錦織に復員した父佐藤弥市が、旧制沼沼中学の同級生飯塚野外氏と立ち上げた「柳紫句会」である。母は戦後、水道も洗濯機もない時代に祖父の介護で教職復帰も諦めたが、後に「柳架句会」に参加して生き生きと活躍した。その母が物忘れになり娘の名も顔も忘れても、俳句だけは唯一の会話の通路として残った。「俳句って何だろう」私は社会人入試で大学院に入学した。学ぶことは本当に楽しかった。指導教授の谷地快一先生のお薦めと、自分の生きた記念にと思い、著書を出版した。「神様が見てくれるから」と苦境を耐え忍んだ母の、嬉しそうな声が聞こえる気がする。

晩学の一書を抱き卒業す

文子

人類のはじまり

熊野正昭（十三回生）

人類誕生の学説等においては、南アフリカの原人が世界に広がって今の人類が育ったという説が主流のようであるが、私はそうは思いません。

それは今の学者さんが地層の発掘にこだわっているのです。そのような結論になっているのでしよう。

しかし考え方をかえてみれば違った結論が出てくるでしょう。私は言葉という文化的な面から考えてみました。

というよりは、はてなの世界」という本ともパンフレットともいうようなものを作ってからそんな考えが生まれてきたのです。

更に、進化論そのものまで否定的になつて来たのです。なぜなら人間が猿から進化したなんてナンセンスでしょう。それなら日本人は日本猿、イギリス人はイギリス猿から進化したのかと考えることになるからです。

むしろ日本人は日本人、イギリス人はイギリス人から進化（？）したという方が自然ではないだろうかと思いはじめ

たのです。

歳をとったせいもあり、自説を曲げないどころか、ダーウィンの進化論すら否定し始めたのです。そしてもし私の説を否定するつもりなら、言葉は原始、世界で一つしかなかったがこのような経過をたどって世界の言葉（百種）にかわつたと証明されるべきと思いはじめたのです。

それはまず無理だと思ひ、私の頭では不可能である。もつとも学者さんも相手にしてくれるわけもないから自分一人で、世界で一つの学説だと思ひ、いればこんな楽しいことはない。こんな考え方を持っている、我こそは天下の論人、と、思う老人になるので、天下一のしあわせ者なのかもしれません。

仙台の兄にあげた、はてなの世界、面白がつて十回も読み直したという人もいるそうなので、やはり世界は広いと思ひ、今日この頃です。在京佐高会も皆さんもお元気で。



はてなの世界

第二十回 「小さな旅」

豊島区立トキワ荘 マンガミュージアム訪問記

令和2年実施予定の第20回小さな旅が、コロナ感染症の影響で中止以来、3年ぶりに実施されました。実施案内は令和2年に参加申込の方が中心のため、今回は一部の方のみになってしまい申し訳ございませんでした。知り合いに呼びかけをしていただくことで参加人数をカバーした結果、27名の応募があり、同伴で参加された方もあり、お陰様で盛況裡に開催できました。

郷土・佐高の誇り石ノ森章太郎さん、(高8回生) 山内ジョージさん(高13回生)らを含め日本漫画の夜明けを堪能してきました。

トキワ荘は2階建ての木造アパートでひと部屋4畳半、1階と2階それぞれに10部屋ずつあり、昭和28年手塚治虫さんからトキワ荘最後の住人となった山内ジョージさんまでの約10年間沢山の漫画家たちが制作に励まれました。

山内ジョージさん、本名山内紀之さんは現在も各地で文字絵展開催など活躍中です。

小さな旅担当熊谷

令和4年度収支報告書

令和4年1月1日～
令和4年12月31日(単位:円)

| 収入の部 | |
|--------|-----------|
| 科目 | 金額 |
| 前年度繰越金 | 525,767 |
| 総会関連収入 | 718,000 |
| 年会費収入 | 249,000 |
| 雑収入 | 3 |
| 収入の部合計 | 1,492,770 |

| 支出の部 | |
|-------------|-----------|
| 科目 | 金額 |
| 会報発行費用 | 102,850 |
| 総会費用 | 924,752 |
| 事務局費用 | 128,681 |
| 支出の部合計 | 1,156,283 |
| 差し引き翌年度繰越金額 | 336,487 |

会計担当 坂入 茂(高17回生)
佐藤 清寿(高19回生)

上記収支報告書について、厳正に監査した結果、適正なる処理による報告書と確認いたしましたことをご報告いたします。

監事 佐藤 榮記(高15回生)
菅原 洋子(高20回生)



ご案内

第二十一回「小さな旅」

令和6年4月6日(土)

松戸市戸定邸・歴史館

来年の「小さな旅」は千葉県松戸市の四季折々美しい表情を見せる戸定が丘公園。ここはもと松戸徳川家の敷地を歴史公園として整備、園内には最後の水戸藩主、徳川昭武が建設した戸定邸が今も明治の姿そのままに保存されています。総会で参加者募集。申し込みの方には後日ご案内をお届けいたします。

総会に欠席の場合は佐高会本部(緑風4ページ)までお問い合わせください。

事務局からのお願い

年会費納入のお願い

現在、在京佐高会の年会費一〇〇〇円を納入していただいている会員の方は全登録会員の約五〇％程度です。年々減少傾向にあります。

「緑風」発行費、送料等すべてが高騰しており、財政上厳しい状況が続いています。この状況をぜひご理解いただき、年会費納入者の増加にご協力いただきたいと思います。更に年会費の増額も検討せざるを得ない時期に来ておりますので、この点につきましてご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、年会費の振り込みは郵便貯金か

ら直接振込むことにより取扱手数料が安くなることを申し添えます。

編集後記

▲コロナの5類移行にともない、もとの日常生活が戻ってまいりました。全国の各観光地やイベントに人が戻り始め、当たり前前に総会が開催でき夢のようです。会員の親睦、ふる里との絆と発展が更に広がることを期待しています。

▲「緑風の窓」は暮らしの中での思い出や発見、出会いなどの紹介のコーナーです。今回は根本文子さん、熊野正昭さんからご寄稿いただきました。会員皆様からの投稿をお待ちしています。

▲令和5年5月5日、佐沼高校ラグビー部創部70周年記念式典が、迫町のホテルで開催され総勢86名の参加がありました。OB参加者のうち私が最年長者として乾杯の大役を果たさせていただきました。その後、全員によるラグビー部歌の合唱に感慨無量の一夜となりました。(K)

在京佐高会事務局

〒102-0007
東京都千代田区飯田橋4-10-1
セントラルプラザ703号
事務局長 武澤 忠臣
電話 03-3267-8793
FAX 03-3267-0796